【移住体験談】協力隊の仕事　vol.１　橋田　豊代さん

伊方町へ移住する前は、どのようなお仕事、生活をしていましたか？

大学在学中にバックパッカーとして世界中を旅行したり、自宅をゲストハウスにしたりするなどオープンな性格と行動力の持ち主だと思います。その反面、料理や縫い物などの細かな手仕事も大好きで、広島市の針メーカーに勤め、手芸用品の販促企画の仕事をしていました。

伊方町に移住を決めたきっかけは何ですか？

たまたま偶然「佐田岬半島に古い織物があるらしい」と人づてに聞き、google検索したところ、実態がよくつかめなかったんです。「googleでも知らないことがまだこの世の中にあるなんて！」とワクワクしながら車を走らせ、道の駅で情報を収集し、伊方町にある「裂き織り」の体験施設「オリコの里」にたどり着きました。

裂き織りとは、古い布を裂いて織り直すエコな技法です。私はそれまでリサイクルというと、薬品を使用して分解するなど大きな工場の中の話だと思い込んでいました。しかし、小さな指先の力だけで、古い布が丈夫になって生まれ変わる光景を初めてみたときに、人生観が変わるほどの感銘を覚えました。また裂き織り保存会の小林先生の人柄の素晴らしさ、車窓から見た半島の景色の美しさがまぶたに焼き付いて離れず、伊方町に３時間ほどしか滞在してなかったのにも関わらず、その翌週には町役場へ移住の問い合わせをしていたんです。笑

現在、行っている仕事の内容を教えてください。

裂き織りをベースに地元銀行のビジネスプランコンテストに応募しました。伝統産業奨励賞を受賞し、愛媛代表として四国大会にも出場を果たしました。事業内容を文章化することで、様々な課題が見えてきました。まずは織る人やファンを増やすために「裂き織りラボ」という研究室を毎週開催しました。ラボには近隣の市町からの参加もあり、地道な活動によって裂き織りの認知度も上がってきています。

伊方町に住んでみた感想を教えてください。

佐田岬半島の厳しい環境で自給自足をすることに慣れているせいか、地域の人々のポテンシャルがとても高いんです。地域の人が当たり前と思ってしていることが、都会の人にとっては「こんなのも自分でも作れるの？」と驚くことが多々あります。こういった地域の当たり前を伝えていけるように元協力隊のメンバーと「コーロク株式会社」を立ち上げ、自然体験学習施設瀬戸アグリトピアの運営をしています。

コーロクは佐田岬半島の方言で「合力」と書き、助け合いの精神のことです。地元の人と移住してきた人が知恵を出し合って助け合える場所になればという想いから会社名をつけました。伊方町は物理的に便利な町ではないけれど、人が考えて工夫をするというチャンスを与えてくれる町だと思います。

師匠の小林文夫さん